



2歳Eちゃんのパパ

次女のEが『もうひとつのおうち』にお世話になることになったきっかけは1歳半検診で言葉の発達の問題を指摘された事が始まりです。その後の区のセンターでの再検査でもやはり言葉の発達がゆっくりであることを指摘され、いくつかご紹介頂いた中のプレスクールの一つが『もうひとつのおうち』でした。

1歳半検診時点ではEは「ママ」「パパ」くらいしか発語がなく、パパとしては次女というのは長女と比べると発達がゆっくりなのかな？くらいにしか正直思っていませんでした。しかしママは追加の検査結果などを聞くうちどんどん心配になっている様子で、Eがご飯をちゃんと食べなかったり、意に反することがあるとおもちゃを投げ飛ばしたりする事をとても気にして、さらに不安が募っていく様子でした。

流石にパパもこれはどうにかしないと、、、と思い、Eに「駄目だよ!!」と語気を強めて言うてしまうこともあったのですが、Eには伝わっているのかもわからず、「キヤー」と言うだけで、またおもちゃを投げる。そんな状況で2歳が迫りママもパパもどうやってEを育てていけば良いかと、ホトホト困っているところで『もうひとつのおうち』に体験で伺いました。

体験で初めて伺ってまず感じたのは、とにかく子供にとって素敵な空間だなということです。やはりどこか教育する“施設”を想像していたので、天井が高くて明るく開放感があり、かつ子供心をくすぐるどこか秘密基地や北欧のホテルみたいな雰囲気の設定に驚きました。

先生方の対応も非常に熱心でした。まず体験で細かくEの様子を見て頂いて、始めにりさせんせいに言われた事は、

「Eちゃんはママとパパの言っている事ちゃんと分かっていますよ。ただ、言葉が話さなくても、ママとパパがEちゃんのやって欲しいことをくみ取ってくれるから、しゃべらなくても困らないのでしょうか。」「でも、やっぱりしゃべらないと伝わらないという時にはイライラしてしまうから、おもちゃを投げるなどの意思表示をしてしまうんです。これから徐々に話せるようになれば、本人もストレスが減ってそういったことも減りますよ。」

この短時間でそこまで見抜いてしまうなんて、、、と衝撃でした。そして、パパはEは大人が話していることを理解出来てないのでは？と思っていたので、分かっていたのはパパの方だったと気づかされ大いに反省しました。体験から帰って、ママともお互いの感想を話し合い、『もうひとつのおうち』にお世話になることになりました。

実際に、『もうひとつのおうち』に通うようになってプログラムの内容にも驚かされました。幼稚園でやるような日常動作：靴を脱いで下駄箱に置く、みんなで座ってお話を聞く、お弁当の用意をして食べる等の一つ一つの動作を発達段階に合わせて本当に細かくご指導いただけます。“本人に何かやらせる為に手を貸す”というより、“現在の課題に対して本人が今何を感じてこうい





行動をしているか、またそれに対してどう寄り添えるか？”ということを考えるという指導方針にも共感できました。

先生方もそれぞれに非常に専門性が高く、Eの言葉のゆっくりさについて相談すると、言語聴覚士の先生がより多くの時間を割いて、発声の練習方法や言葉カードの使い方など細かくご指導いただきました。また身体的な発達の課題については作業療法士の先生が体の使い方や、遊びの中での体力作りの方法などをご指導いただきました。ただし、専門性の高い“先生”方が集まっています。それぞれが縦割りで対応されるのではなく、こどもからしたら皆“せんせい”方で分け隔てなくお友達と一緒に皆が成長できるように一丸となって対応して下さいます。

6か月経った今では、Eは言葉をたくさん話すようになり3語文も普通にしゃべるようになりました。お歌も大好きで、色々な曲を聴いては上手に覚えて歌っています。また、意思疎通がスムーズにとれるようになったことで、もの投げる、お友達を突き飛ばす等の行動もほとんど見かけなくなりました。通い始めた頃を思い返すと、どこか家族内でピリピリした雰囲気はママ・パパにもあったかと思えます。しかし、Eが驚くべき速度で成長してくれた事で我々も親として子育てに自信がつき、今では家族皆でどんどん外出して長女含め楽しく育児が出来ていると感じています。

Eに関して、『もうひとつのおうち』で一番びっくりしたことは、りさせんせいから聞いた「Eちゃんは、本当はすごく几帳面で完璧主義なお子さんなんですよ。」という事でした。ママ・パパが注意してもどこ吹く風で聞きながし、完全なマイペースな子だと思っていたEですが、実はお弁当の準備をさせてればフォークとスプーンをきっちり揃えて置かないと気が済まなかったり、ほんの些細な事でも自分が失敗したと思うと泣いてしまったり。全くママ・パパが知らないEの一面があることに気づかされました。そのせいなのか、トイレトレーニングは長女の時より突にあっという間に卒業してしまい、決められた課題に対して実に律儀な一面があることが分かりました。

今はママ・パパ共に『もうひとつのおうち』に巡り合えて本当にラッキーだったと思っています。2歳近くなっても全然しゃべらないEを前に不安ばかりで、でも二人とも具体的にEに対してどうしていいか分からなくなっていました。りさせんせいにあの時、「Eはママ・パパの言っている事ちゃんと分かっていますよ。」と教えてもらえなかったら、Eの事をちゃんと理解してあげられないまま、Eの知らなかった一面に気づかぬまま子育てを続けていたら、、、と少し怖さすら感じます。

きっと、我々以外にも同じように今悩まれているママ・パパがいらっしゃると思います。我々と同じようにご兄弟（姉妹）のいらっしゃる方もいると思いますが、我々が経験している子育てというのは極々限られた経験でしかないと思います。是非、沢山のお子さんを見てきた専門の先生方に会って、話を伺ってみて下さい。実は手助けが必要なのはお子さんではなく、ママ・パパの方なのかもしれません。

